

義援金50万円市に寄託

熊本地震で技工団と協力会

【山口】山口市に本社を置く(株)技工団(作間悦次社長)と技工団労働災害防

止協力会(会長・横山省吾)は1日、今年4月に発生した熊本地震に対



渡辺市長(右)に義援金を手渡す作間社長(中央)と横山会長

し、義援金50万円を山口市に寄託した。

同日、作間社長と横山会長が市庁舎を訪れ、日本赤十字社山口県支部山口市地区会の会長でもある渡辺市長に「被災地の1日も早い復興を願っている。被災者の支援に役立てて

ほしい」と、同社と協力会合わせて義援金50万円を手渡した。

渡辺市長は「復興に向け、これからが長く大変だ。日赤を通じ、皆さんの温かい気持ちとともに届けます」と述べた。

同社は、今年創業70周年を迎えた県内でも有数の総合建設業者。創業者の作間正朝氏が熊本大学出身、社員も熊本出身者がいるなど縁が深く、また、震災後の被災地・被災者、熊本城の悲惨な被害状況を見るたびに心が痛み、何か支援できることはないかと、協力会とも相談、今回、義援金を贈ることに決めた。